

2025年3月期 決算説明会資料

2025年5月

ZACROS株式会社（東証プライム：7917）

1 . 会社概要	P. 3
2 . 2024年度 通期業績	P. 6
3 . 2025年度 通期業績予想	P. 11
4 . 中長期経営計画 進捗報告	P. 16

会社概要

会社名 ZACROS株式会社
(ZACROS Corporation)

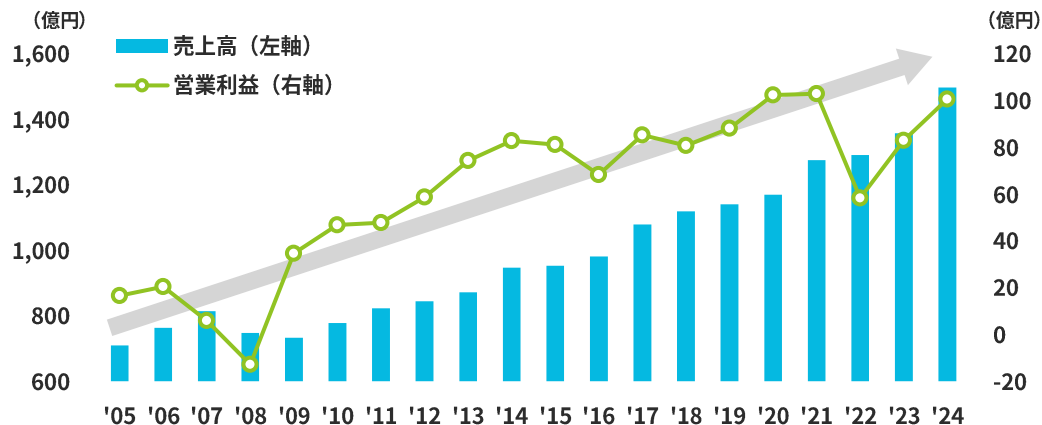
創立 1914年（大正3年）4月1日

資本金 66億68万円

所在地 本社
〒112-0002
東京都文京区小石川一丁目
1番1号 文京ガーデンゲート
タワー22階

従業員数 1,305名（単体）
2,648名（連結）
(2025年3月31日時点)

売上高・営業利益の推移



ウェルネス



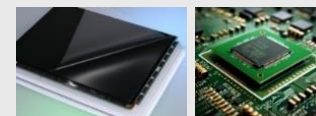
産業インフラ



環境ソリューション



情報電子



2024年度
売上高
1,507億円

- 創業以来、「ソリューション創造活動」の進化を続け、4つの事業領域で事業を展開中。
- 新規分野としてBioPhaS及び再生医療用ヒト細胞の大量培養技術から派生した事業群に注力。

既存事業

新規事業

ウェルネス



医薬・医療用包装材

医薬向け剥離フィルム

バイオ医薬品等製造用
シングルユースバッグ
(BioPhaS®(バイファス))

成長牽引

医療機器、体外診断薬
関連及び検査薬関連

育成

細胞培養受託

育成

細胞性食品

育成



環境ソリューション



つめかえ包装、粧業包装、
その他軟包装

プラスチック製液体容器
(バッグインボックス等)

成長牽引

OA機器関連包装

成長牽引

情報電子



剥離フィルム

プロテクトフィルム
(偏光板用プロテクト等)

成長牽引

情報記録用材
(層間絶縁フィルム等)

成長牽引

その他情報関連機器用材

育成

産業インフラ



ビル用煙突
ボイドスラブ
空調用配管

成長牽引

トンネル用資材

成長牽引

プラスチック原料・商品
及び関連機械

海洋生分解性バイオマス樹脂

育成

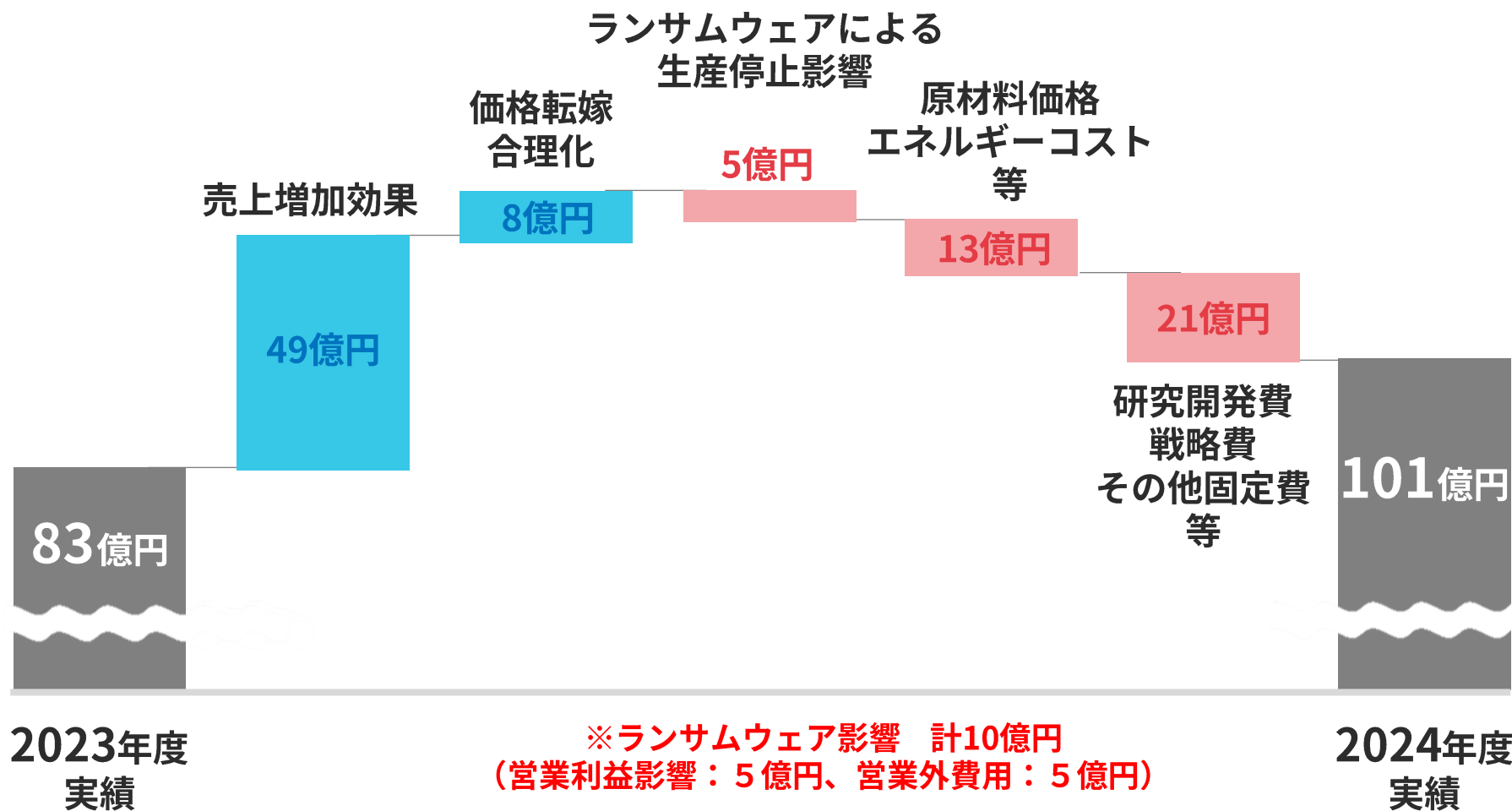


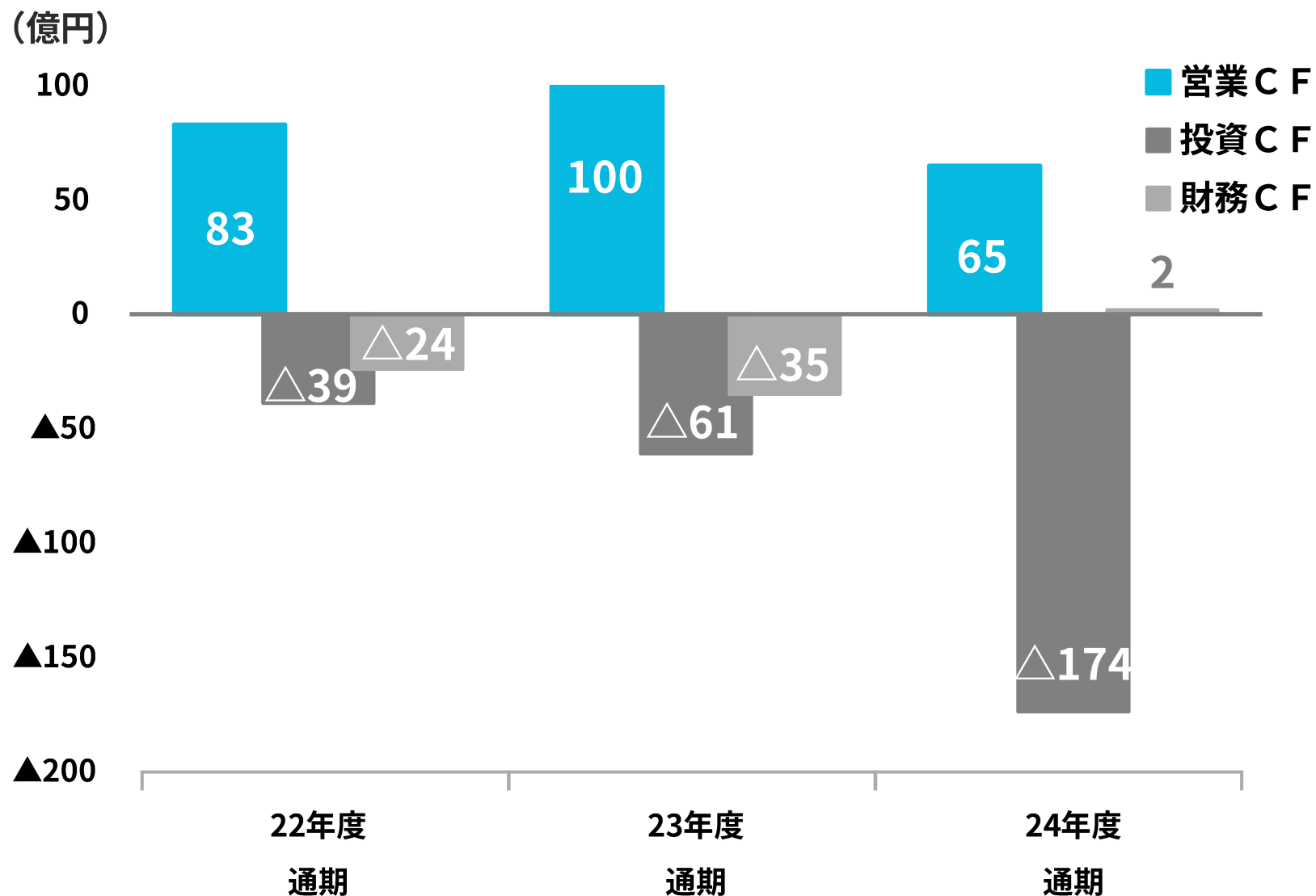
2024年度 通期業績

- 2024年度通期業績は、前年度比で増収増益。
- 営業利益100億円を回復。

（単位：百万円）

	2023年度 通期	2024年度 通期	前期比	
			増減	伸び率
売上高	136,155	150,735	14,580	10.7%
営業利益	8,344	10,116	1,772	21.2%
経常利益	8,910	10,366	1,455	16.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	4,532	6,530	1,998	44.1%

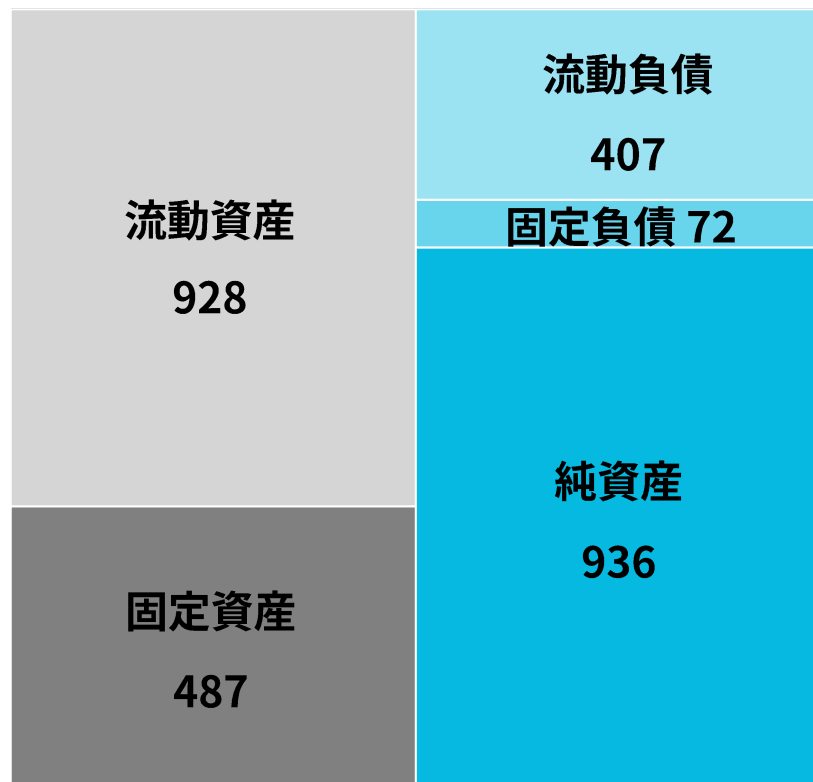




- ・ 総資産は122億円増加し、1,539億円となる。

(単位：億円)

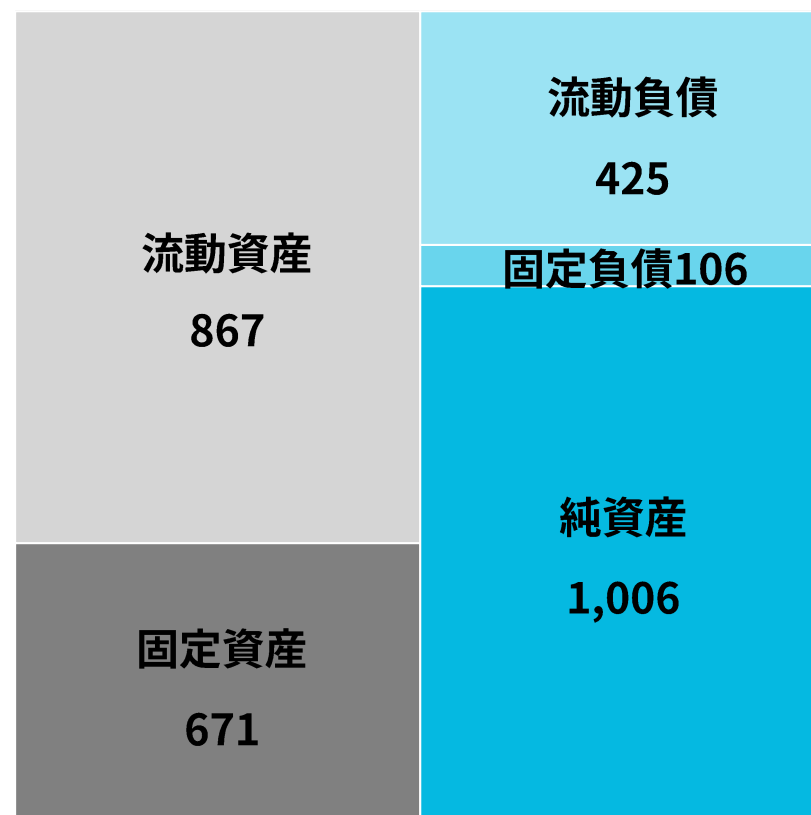
2023年度末



総資産 **1,416** 億円

自己資本比率 **60.4%**

2024年度末



総資産 **1,539** 億円

自己資本比率 **59.5%**

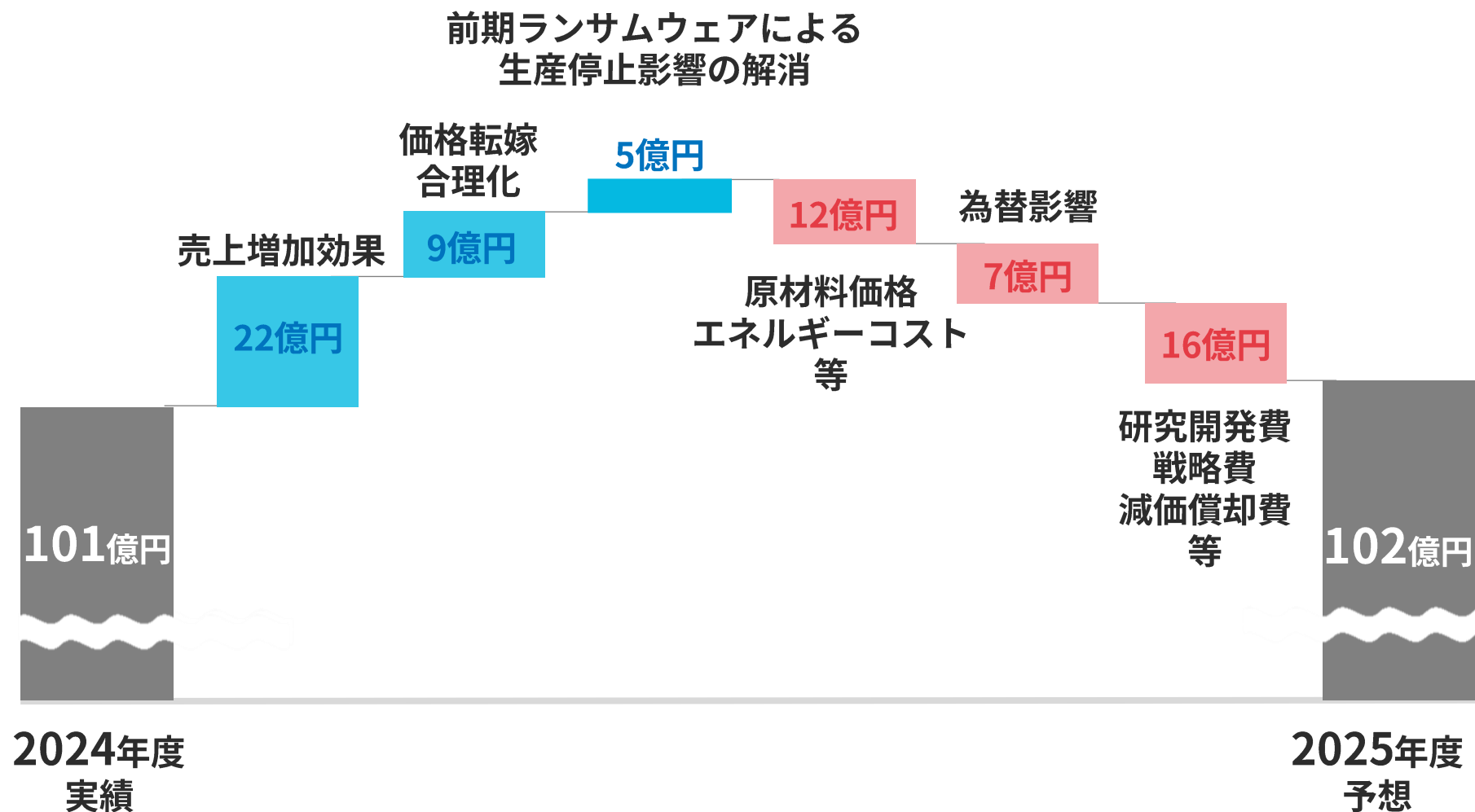
2025年度 通期業績予想

2025年度 連結通期業績予想（連結・前期比）

- 2025年度業績予想は前年度比で増収増益見込。
- 交付決定された大規模成長投資補助金を特別利益に見込むことで、2025年度の親会社株主に帰属する当期純利益は大きく増益となる見込。

（単位：百万円）

	2024年度 通期	2025年度 通期業績予想	前期比	
			増減	伸び率
売上高	150,735	157,000	6,264	4.2%
営業利益	10,116	10,200	83	0.8%
経常利益	10,366	10,800	433	4.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,530	7,500	969	14.8%

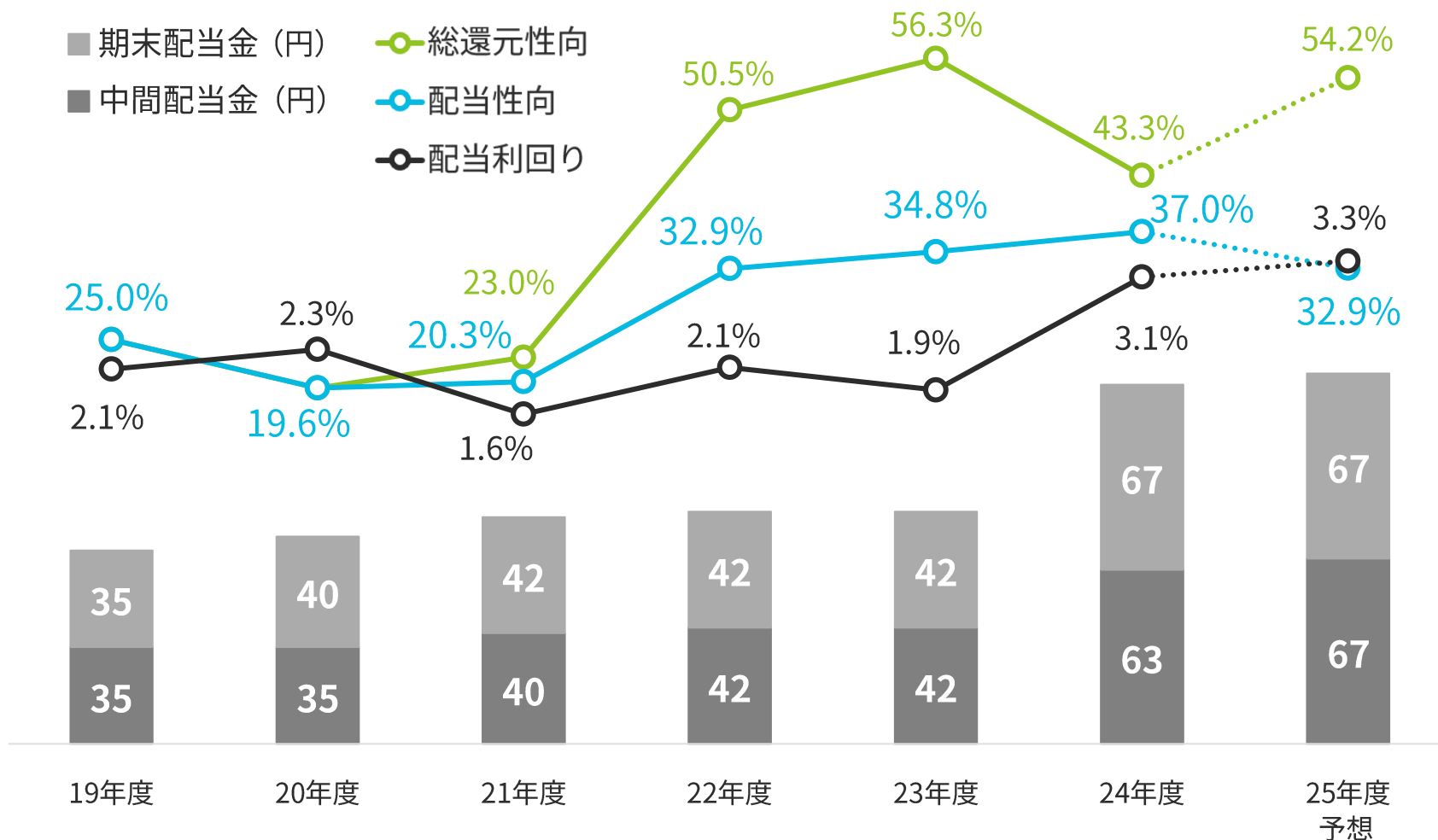


セグメント別損益 (2022/2023/2024/2025年度比較)

(単位：億円)

	2022年度 通期		2023年度 通期		2024年度 通期		増減	伸び率	2025年度 通期予想	増減	伸び率
売上高	1,293	100.0%	1,361	100.0%	1,507	100.0%	145	10.7%	1,570	62	4.2%
ウェルネス	270	20.9%	260	19.2%	271	18.0%	10	4.0%	284	12	4.6%
環境ソリューション	337	26.1%	334	24.6%	326	21.7%	△7	△2.4%	322	△4	△1.5%
情報電子	379	29.4%	449	33.0%	539	35.8%	90	20.0%	566	26	4.9%
産業イノベーション	305	23.6%	316	23.2%	369	24.5%	53	16.8%	398	28	7.7%
営業利益	58	4.5%	83	6.1%	101	6.7%	17	21.2%	102	0	0.8%
ウェルネス	13	4.9%	8	3.2%	5	1.9%	△3	△37.1%	3	△2	△42.7%
環境ソリューション	12	3.7%	14	4.3%	12	4.0%	△1	△10.2%	16	3	23.3%
情報電子	4	1.3%	30	6.7%	42	7.8%	11	39.4%	42	△0	△0.2%
産業イノベーション	28	9.3%	30	9.6%	40	11.1%	10	34.1%	41	0	0.3%

- 利益の配分については、配当性向40%をターゲットに安定的かつ継続的な配当を行う。



※ 24年度の中間配当63円、期末配当67円はそれぞれ記念配当10円を含む
 ※ 配当性向 25年度：2025年4月末までに取得した自己株式を含んで算定
 ※ 配当利回り 24年度まで期末株価、25年度：3,970円(25年5月7日)を元に算定

中長期経営計画の進捗

ソリューション創造活動の進化

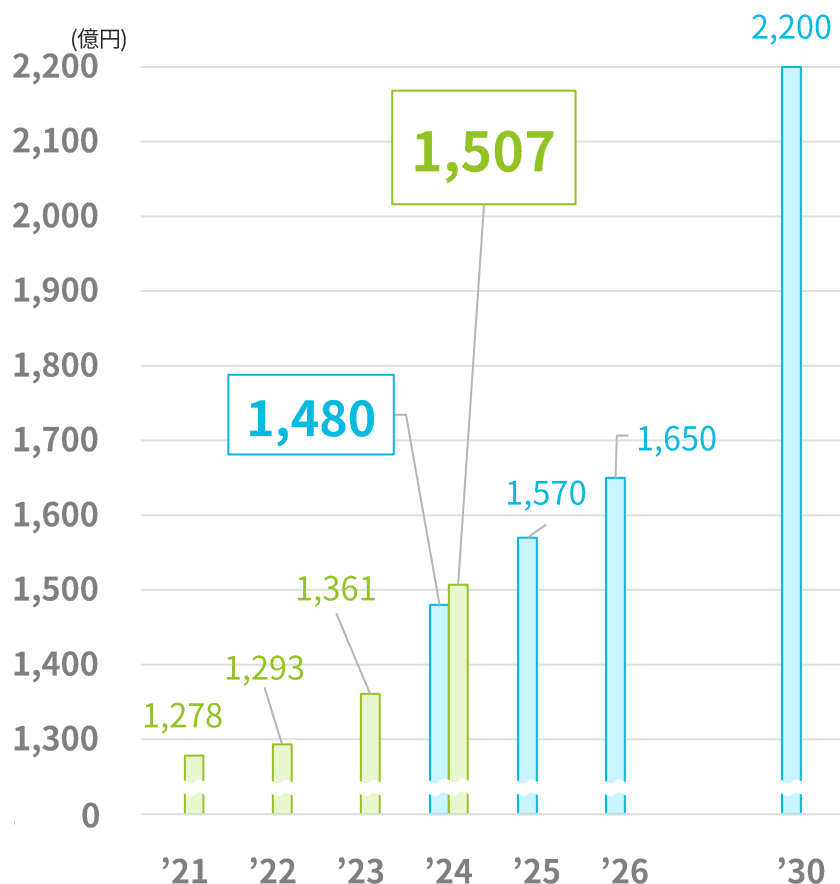
- 2030年度のROE12%を目指し、積極投資による構造改革を断行。
- 先行投資に伴う償却費が発生するため、2026年度の利益水準は現状並みに留める計画。

		2021-23年度（実績）	2024-26年度（計画）	2027-30年度（目標）
位置づけ		基盤強化・準備	積極的な先行投資	投資成果の収穫
取組み		- 既存事業・生産拠点の増強 - 新規事業の追加・加速 - コーポレート機能の強化	- ビジネスモデル進化 - ポートフォリオ変革 - バランスシート改革	フリーキャッシュフローの安定成長に資する投資
最終年度	売上高	1,361億円	1,650億円	2,200億円
	営業利益率	6.1%	6.1%	10.0%
	ROE	5.4%	6.2%	12.0%
	EBITDA	142億円	200億円	330億円
期間中の投資額		179億円	700+α億円	400+α億円
株主還元方針		安定的・継続的配当	安定的・継続的配当を維持	
配当性向		20.3%→32.9%→34.8%	40%を目安とする	未定
年間配当額		82円→84円→84円	130円（2024年度）	

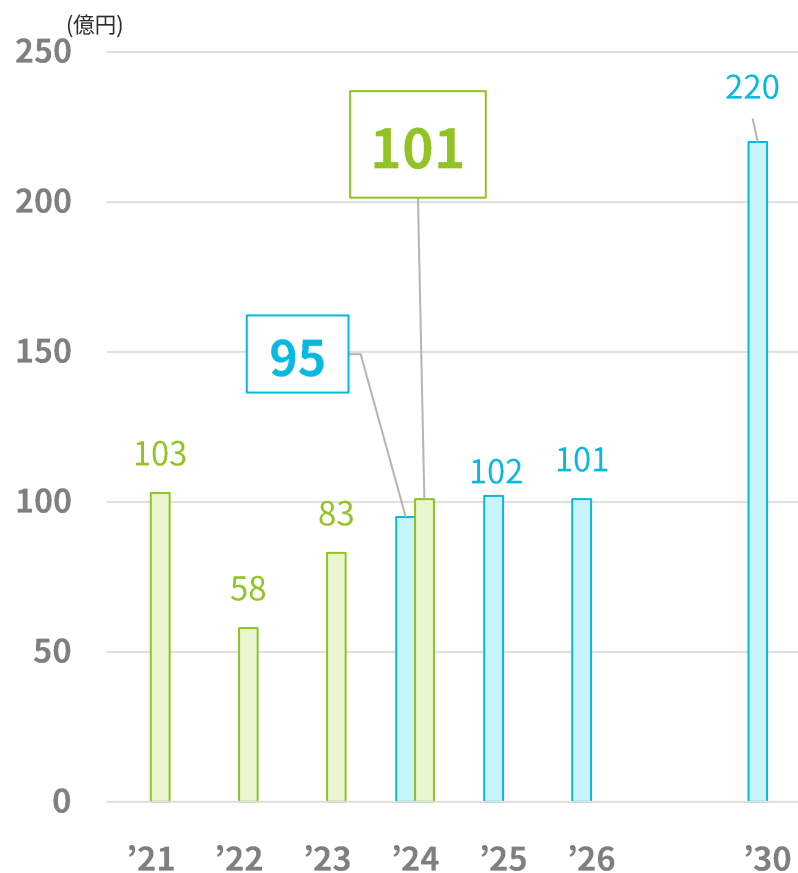
※ M&A費用は「+α」に含む

- ・売上高は、2030年度目標に向かって順調に推移。
- ・積極的な投資・償却発生に伴い、営業利益率は2025年度業績予想で6%台半ばに留まる（当初計画通り）。

売上高

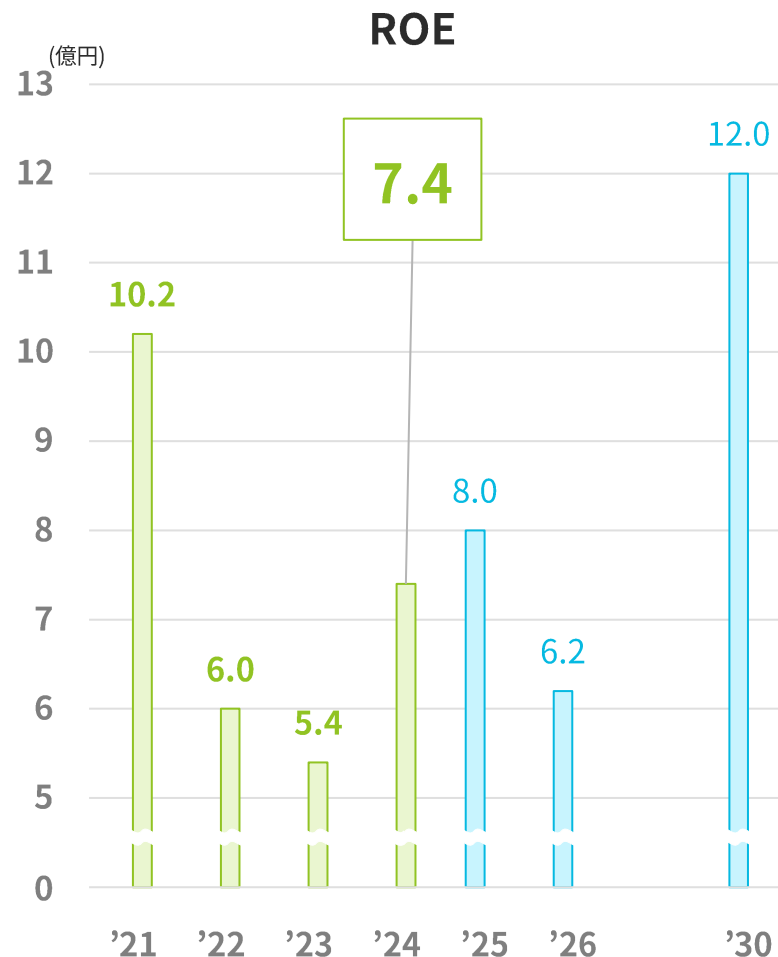
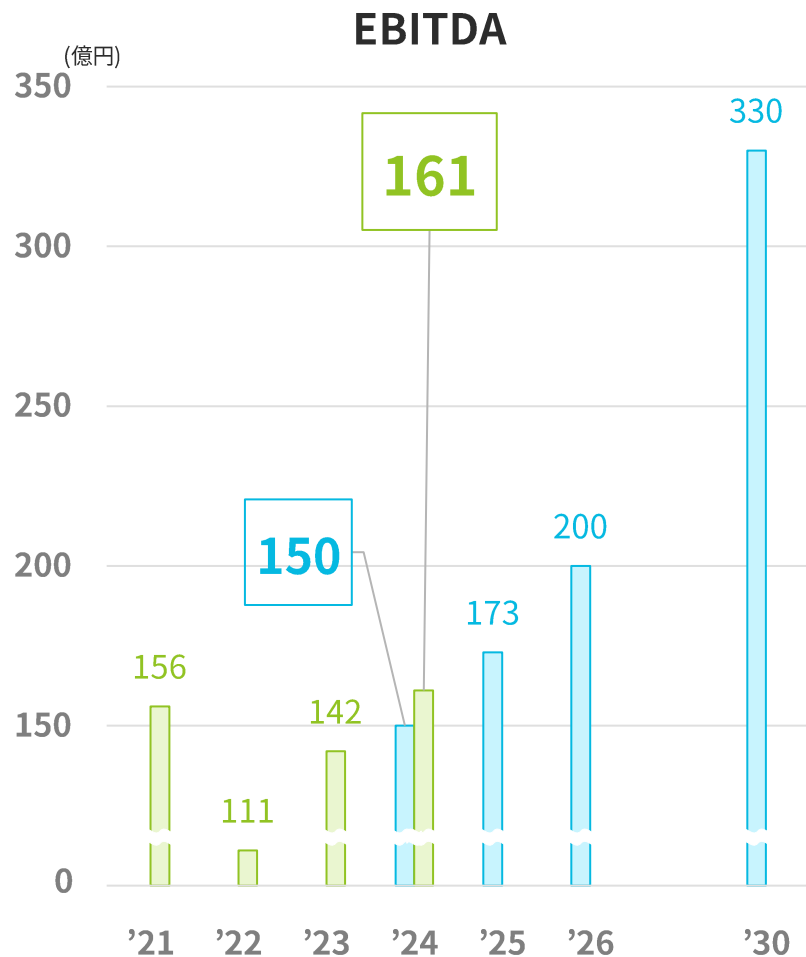


営業利益



実績
 計画：2025年度は業績予測値、2026年度は中長期計画値（2024年5月開示）据置き

- EBITDA・ROEは、当初計画を上回るペースで進捗。



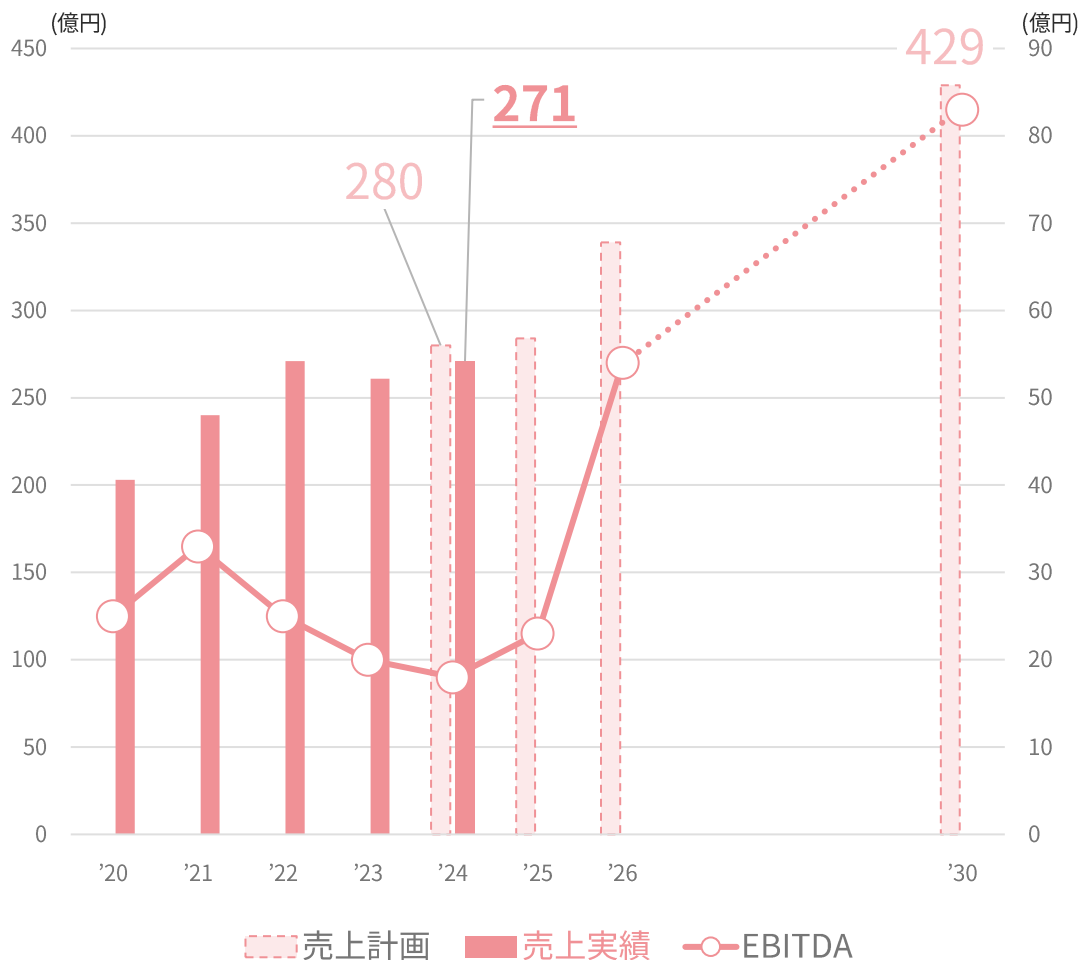
実績
 計画：2025年度は業績予測値、2026年度は中長期計画値（2024年5月開示）据置き

- 2024年度は「戦略的成長投資」期間の1年目として概ね順調に進捗。

◎ 前倒し／上振れ
○ 計画通り
△ 計画遅れ

ビジネス モデル 進化	ウェルネス	○ 三重事業所 新棟竣工によるバイオ医薬品等製造用シングルユースバッグの生産能力強化 ○ セルジェンテック社への戦略的投資により、細胞製造拠点を新設 △ 医療機器：事業計画を見直し中 ◎ 細胞製品：2024年度に初の売上を計上 ◎ POCT用マイクロ流路バイオチップの開発が順調に進行中
	環境 ソリューション	○ プラスチック製液体容器（バッグインボックス等）に関してマレーシアの生産拠点の拡充 ◎ // - 中国生産拠点の新設を決定
	情報電子	○ 偏光板プロテクトフィルム：3m幅塗工機新設、既存設備改良は順調に進展 ○ 半導体パッケージ基板用層間絶縁材料の増産体制を整備 ◎ プロテクトフィルムの用途展開を推進 受注拡大に成功
	産業 インフラ	○ 関東工場の新棟建設は順調。首都圏の需要増加に対応することでシェア拡大を図る
	新規事業	○ 9cm×15cm×1cmの霜降りステーキ様培養肉の作製に貢献、現在大阪万博にて展示中 ○ 海洋生分解性バイオマス樹脂のスケールアップ試作を実施
ポート フォリオ 変革	環境 ソリューション	○ 食品包装事業の一部をカナオカホールディングスへ譲渡
バランス シート 改革		○ 手元現金95億円を有効活用し、投資に充当。 ○ 財務レバレッジ拡大 産業インフラ関東工場新設や米国で建物・土地取得などにより、合計42億円を借入
		○ 配当合計130円（上期63円、下期67円）、自社株買い（上限20億円）

- 成長牽引事業・育成事業への先行投資・戦略費負担により足元の収益が低下。
- 三重事業所 新棟の稼働率向上、細胞培養受託事業の立ち上がりによる成長を見込む。



注）2025年度は業績予測値、2026年度は中長期計画値（2024年5月開示）据置き

バイオ医薬品等製造用 シングルユースバッグ

成長牽引

- 三重事業所の新棟が竣工し、2025年度中の稼働に向けて準備を順調に進行中
- J-STACなど外部パートナーとの連携強化により、さらなる付加価値向上を推進

医療機器

育成

- 2025年度に向けて戦略的な見直しを実施し、持続可能な成長を実現するためのスケジュール最適化を進行中

細胞培養受託

育成

- 細胞製品で初の売上を計上
- バイオベンチャーへの戦略的投資・協業により事業体制を整備、製造実績蓄積を加速
- 亥鼻イノベーションプラザ（千葉大学亥鼻キャンパス内）に細胞製造拠点を新設、細胞培養受託事業に向けた準備を進行中

医薬・医療包装材

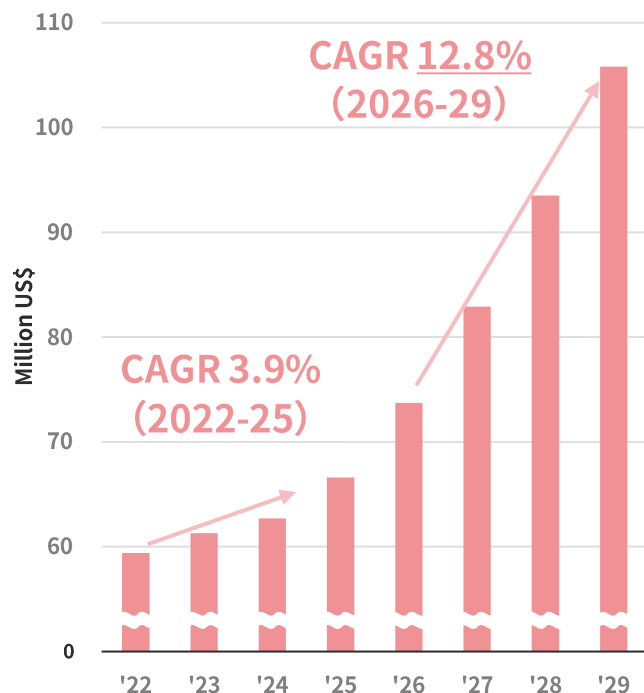
基盤

- 国内は収益性向上に注力、事業効率の最適化を推進
- 東南アジアの医療ニーズ拡大を見据え、現地マーケットとの連携を深め、海外展開を戦略的に加速

- 生産力増強のため三重事業所に新棟を整備。
- 当面は償却費が収益を圧迫するが、増産・生産性向上に伴う収益回復を見込む。

対象市場

抗体医薬用を中心に需要は旺盛



出所：SINGLE-USE ASSEMBLIES MARKET：GLOBAL FORECAST TO 2029
(MARKETS AND MARKETS)

事業戦略

国内製薬会社のカスタム対応ニーズに対して、欧米企業にはないきめ細かい対応で差別化
日本国内の製薬会社のみならず、アジア各国のニーズにも対応

期待できる成果

バイオ医薬品の開発段階から採用されることで、長期安定的な受注を見込むことができる



三重事業所（右が新棟）

- 生産性向上
- 環境配慮
- J-STAC

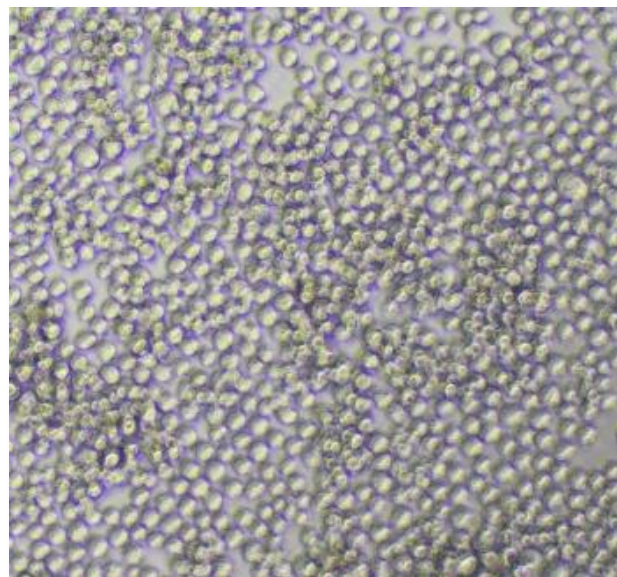
増産に柔軟に対応できる新たな生産方式を採用。
屋根への太陽光パネル以外に、路面にも太陽光パネルを設置。
国内におけるシングルユース部素材の国産化を進める当社主導のコンソーシアム。2025年第1四半期より一部国産部素材の上市がスタートし、国内調達が順次可能になる予定。

細胞培養事業

- 検査薬開発向けに細胞製造を受託し試験製造段階で売上を計上、定期的に売上獲得を予定。
- CDMO 事業の早期実績化のためセルジェンテック社に追加出資、亥鼻イノベーションプラザ（千葉大学亥鼻キャンパス内）に細胞製造拠点を新設、細胞培養受託事業に向けた準備を進行中。
- ネオセルフ抗原発現細胞の製造方法開発と製造受託を目的にAOI Biosciences（アオイバイオサイエンス）社に出資。



新拠点が立地する施設（上）
培養作業の様子（下左）
細胞製品の凍結チューブ（下右）



培養した細胞の顕微鏡写真
（初回納入品と同種の細胞）

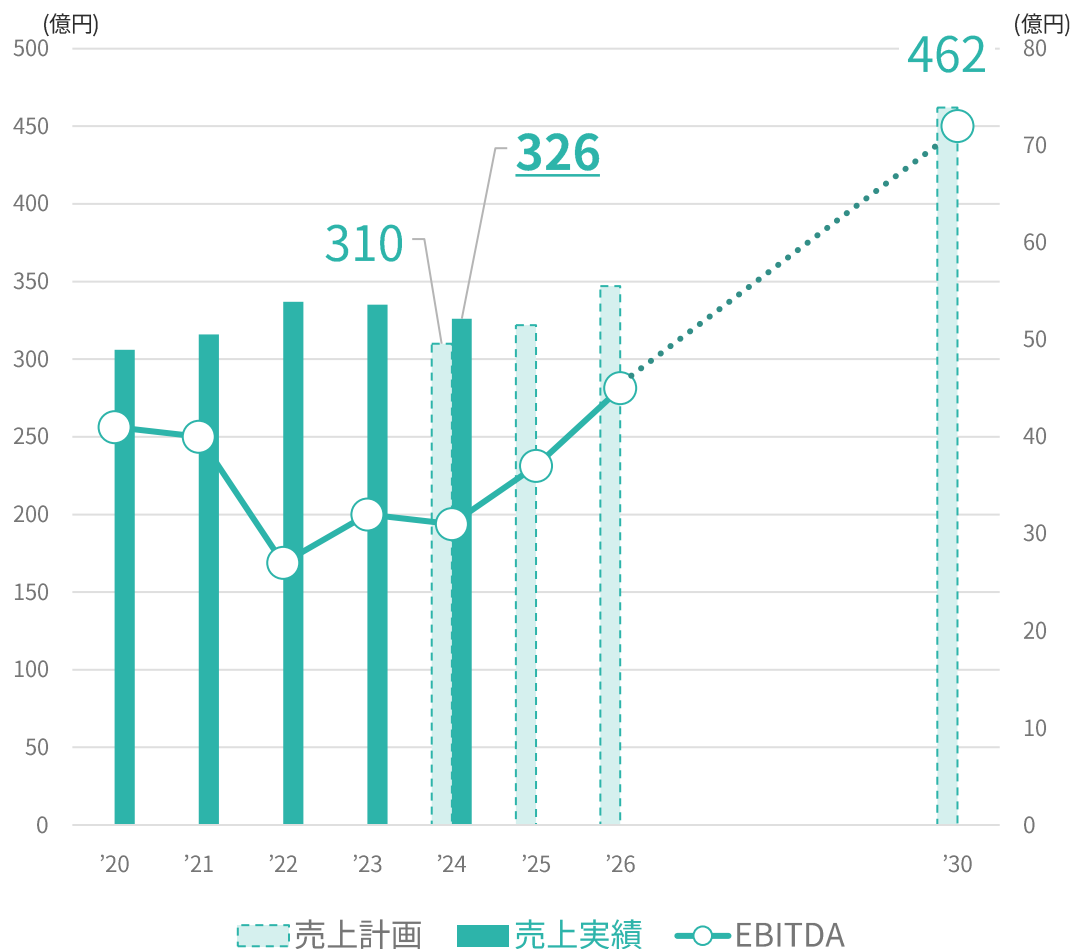
医療機器事業

- 医療機器T-TASは早期黒字化を断念し、持続可能な成長を実現するためのスケジュール最適化を推進中。
- T-TASのコア技術を応用したPOCT用マイクロ流路バイオチップの技術開発が進行中。
- タウンズ社との戦略的業務提携も締結。



開発したバイオチップ

- ・ 環境意識の高まりを追い風に海外展開を加速。機能性・環境性能という新たな価値を創造。
- ・ 事業売却や方針転換なども行い、中長期のポートフォリオ変革を強力に推進。



注）2025年度は業績予測値、2026年度は中長期計画値（2024年5月開示）据置き

包装事業

基盤

- ・ 環境対応製品のラインアップを強化
- ・ 外部連携によるリサイクルスキーム構築を加速
- ・ 生産DX、品種統合等による収益性向上
- ・ その他液体包装の販売が好調

容器事業

成長牽引

- ・ 水平リサイクルを行ったプラスチック製液体容器（バッグインボックス）を製品化
- ・ 中進国・新興国の血液検査用需要が好調
- ・ 北米・東南アジア・中国・インドでの事業拡大を加速

OA機器関連包装

成長牽引

- ・ 既存分野でのシェアを維持、拡大
- ・ 未開拓領域・エリアでの拡大にも取り組む

食品包装

再構築

- ・ 一般汎用食品包装事業は売却完了、機能性食品包装に特化して事業再構築
- ・ 中国地方では地域限定の新ビジネスモデルを模索

- ・ 血液検査の需要伸長が見込まれる中国・インド・東南アジアでの事業拡大を加速。
- ・ 日本で培ったノウハウ・市場認知度を活かし、現地ニーズを捉えた製品開発を強化。



つめかえ包装

東南アジア・北米における環境法制や
消費者意識の変化を見据えた事業拡大を加速



インドネシア生産拠点



タイ生産拠点



米国生産拠点

プラスチック製液体容器 (バッグインボックス等)



アジア地域(中国・インド・東南アジア)での
成長戦略を加速



マレーシア生産拠点
2025年4月より
増設ライン稼働



無錫
上海市
華平（無錫）智造園に新製造拠点設立予定
中国での需要増に対応

- ・ 需要地近くでの生産体制を整備し、新興国の需要拡大に対応。
- ・ マレーシア、中国江蘇省での生産体制を拡充・整備。

対象市場

血液検査は経済発展とともに新興国で普及する性質があり、現在は中国、次にはブラジル・インドでの市場拡大が見込まれる

当社のプラスチック製液体容器“キュービテナー”は当該検査に用いられる血液希釈剤の容器としてスタンダードになっている

事業戦略

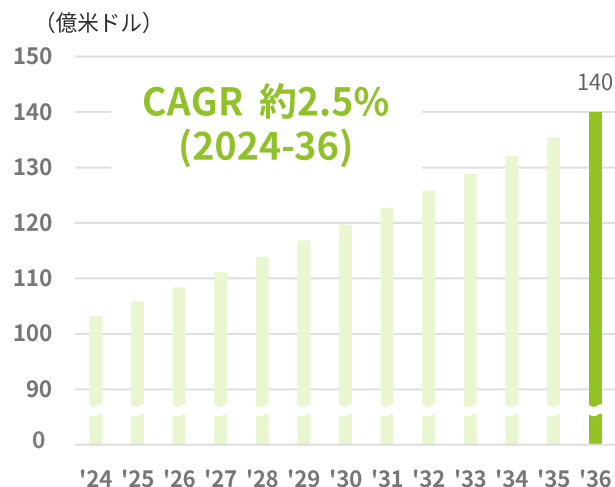
血液検査需要の立ち上がりをいち早く捉え、グローバルプレイヤーのみならず、各国の新興企業の需要に早い段階から対応

医療用途に耐える品質を担保し、競合他社を圧倒

足元の対応

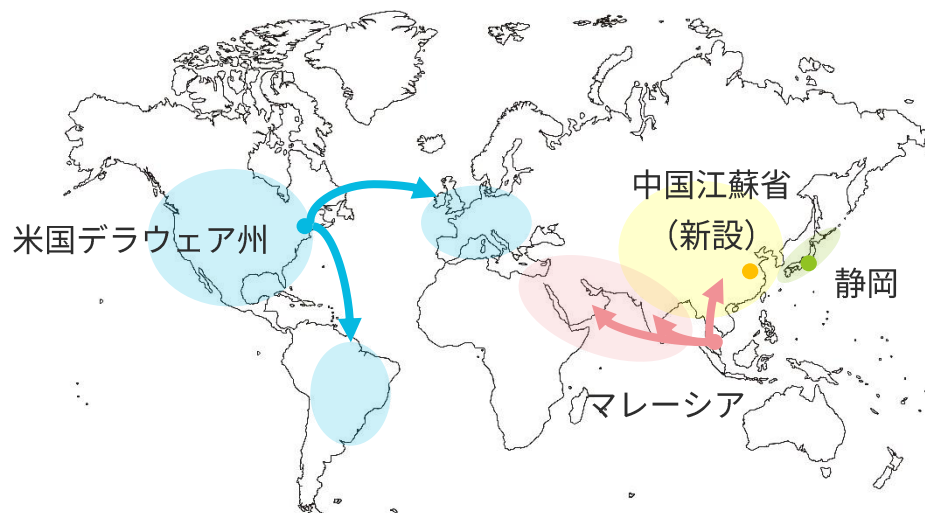
旺盛な重要に対応するため、マレーシアの生産拠点を増強（2025年4月稼働開始）

中国国内需要および中国メーカーの輸出需要に対応するため、同国江蘇省無錫市に新拠点設立準備中（2026年上期完成予定）



血液分析装置市場

CAGR2.5%、2036年140億ドル（予想）より算出
（参考データ） <https://newscast.jp/news/4618208>



- ・ 偏光板用プロテクトフィルムでは、業界初の3m幅塗工機を導入し、圧倒的シェアを狙う。
- ・ 偏光板用以外のプロテクトフィルムの用途展開を推進。
- ・ 情報記録用材（層間絶縁フィルム等）は半導体パッケージ基板用層間絶縁材料の増産対応継続。



注）2025年度は業績予測値、2026年度は中長期計画値（2024年5月開示）据置き

プロテクトフィルム 成長牽引

- ・ 偏光板業界再編に伴う競争優位性向上と業界初の3m幅生産設備の導入により更なるシェア拡大へ
- ・ 新規用途展開が進み受注拡大

情報記録用材 成長牽引

- ・ 半導体業界のデファクトスタンダードであるABFの増産対応に注力
- ・ 半導体需要回復を見据え、タイミングを図りつつ順次投資を予定

二次電池 育成

- ・ 新規材料開発、プロセス構築にかかわる共同開発を複数進行
- ・ 主要四部材以外の周辺部材の開発、拡販も推進

電子部材 育成

- ・ HPC（ハイパフォーマンス・コンピューティング）をターゲットに開発を推進
- ・ 自社開発品及び他社開発品の生産受託サービスの両輪で新規用途を探索
- ・ 台湾拠点で現地企業との共同開発も進展

- LCD市場の伸長、大画面化・高効率面取りに対応し、更なるシェア拡大をするため3m幅塗工機を新設。

対象市場

液晶ディスプレイの需要は堅調
韓国L社の事業売却・生産休止に伴い偏光板プロテクトフィルムの供給が逼迫
当社に対する引合は非常に旺盛

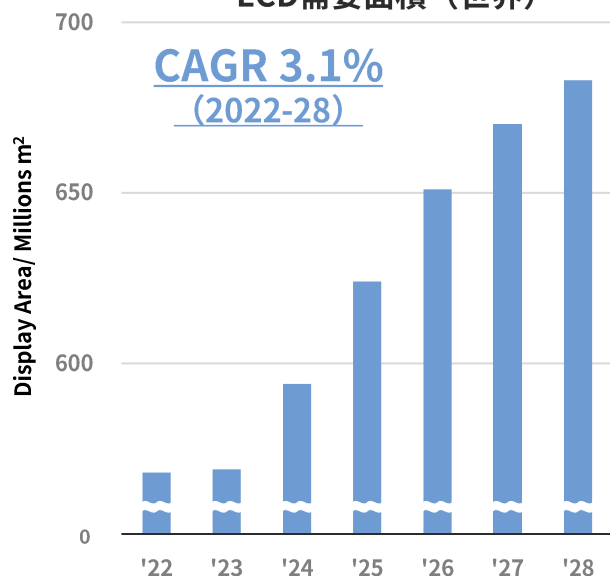
事業戦略

コストで他を圧倒し、圧倒的シェアを確保
ディスプレイの大型化、生産効率改善のため偏光板の広幅化が進むこれに対応するため、当社は業界初の3m幅塗工機の設置を進めている（2027年度より本格稼働）
同時に台湾の既存生産機を改造

新用途開発

プロテクトフィルムを偏光板以外の新用途に展開開始（2025年度から本格的に収益貢献）

LCD需要面積（世界）



※ 外部調査機関調査データ

設備投資による当社生産能力は約1.3倍を予定



群馬県 沼田生産拠点

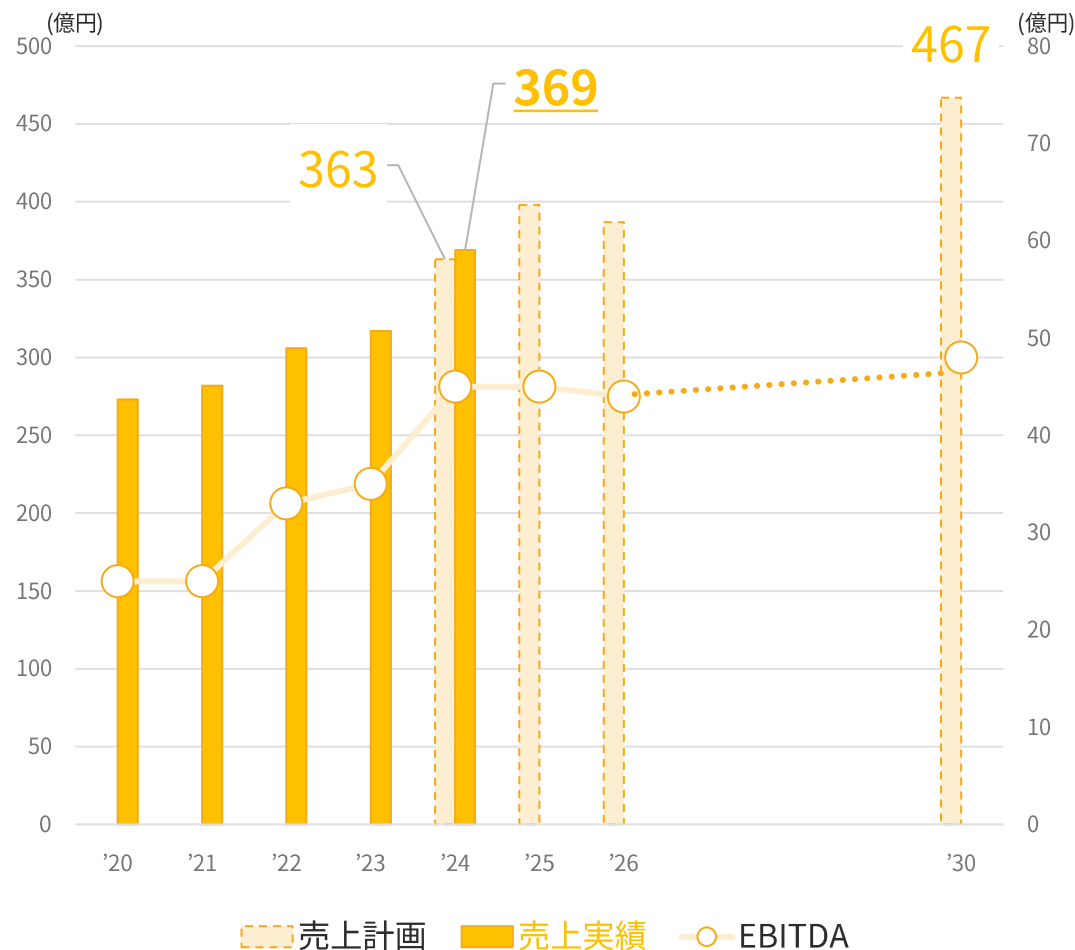
2026年度下期 稼働開始予定
建設費用の一部に補助金を充当



台湾生産拠点

設備改造は完了し、試運転中

- 2024年度の計画を達成し、前年度を大幅に上回る成長を実現。
- 建設需要は依然旺盛だが、2025～26年度は当初の中長期計画の目標値を据置く。



ビル用煙突

成長牽引

- 国内シェアNo.1のオーダーメイド煙突
- 特殊素材を用い施工から一貫して対応可能
- 非常用発電機・各種ボイラーなどの排気に使用

空調用配管

成長牽引

- 軽量で労力削減、高断熱素材で保温工程不要
- 簡易施工により、建設現場の省力化に大きく寄与する製品のラインアップを拡充
- 建設現場の生産性改善のためのソリューションを合わせて提供

トンネル用資材

成長牽引

- 資材、システムを複合した開発継続
- DXソリューション提案を強化

注）2025年度は業績予測値、2026年度は中長期計画値（2024年5月開示）据置き

- ビル用煙突、空調用配管、トンネル用資材、対象市場の需要はそれぞれ旺盛。

対象市場

全国的に建設需要は旺盛だが、建設労働者数はピーク時の7割で高齢化も進むなど、建設現場の省人化ニーズは極めて大きい

空き家が問題になるなど建物の量的充足感はあるものの、一方で、省エネ住宅、高機能オフィスビル、特定セグメントの需要は依然大きい

事業戦略

建設市場の中でも特に成長する市場に集中し、建設現場の効率改善に資するソリューションを提供

部材とDXソリューションを組み合わせ、設計事務所・施主などの意思決定者に提案

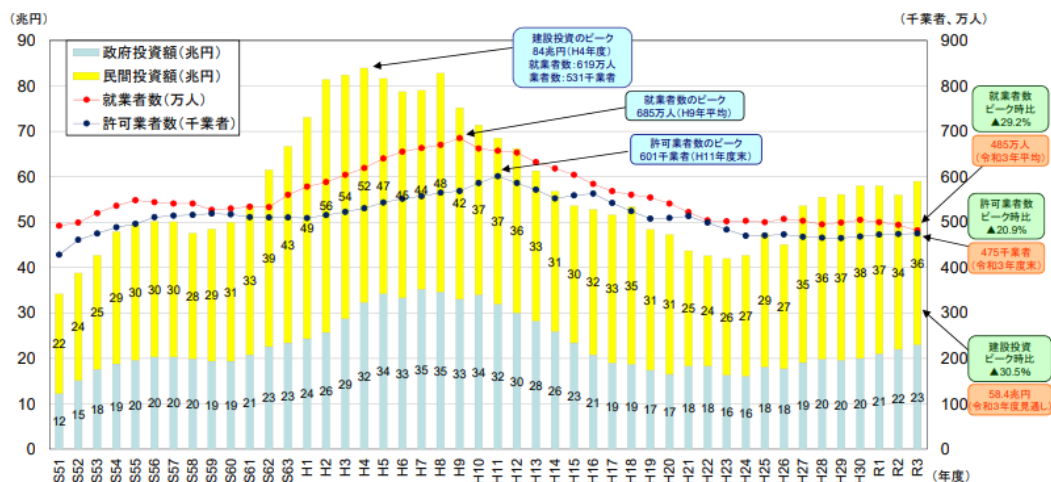
足元の対応

空調用配管の生産力強化のため関東工場に新棟を建設、首都圏の需要増加に対応することでシェア拡大を図る

商材間のクロスセルを徹底し、新たな事業機会獲得

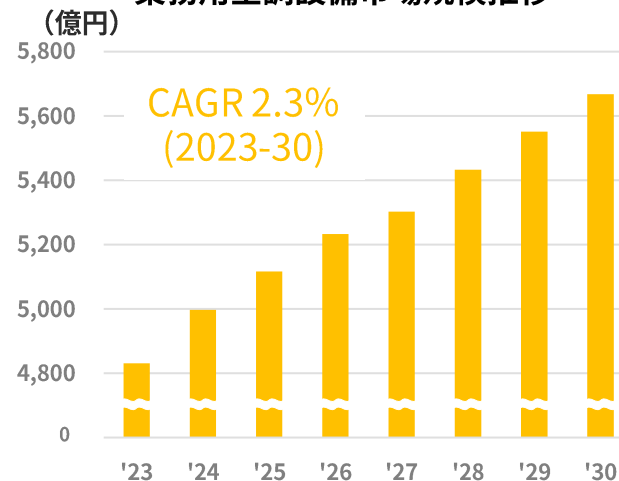
維持・メンテナンス需要への体制構築を進める

建設投資、許可業者数及び就業者数の推移



出所：国土交通省「建設業を巡る現状と課題」

業務用空調設備市場規模推移



出所：矢野経済研究所

- ・ 「積極的な先行投資」の方針に基づき、2024年度は236億円を投下。3年間の目標対比34%の進捗。
- ・ 手元現金は約96億円を投入、さらに有利子負債を活用し借入金30億円増加。

		原資	資金使途	2024-26年度 計画	2024年度 実績	2025年度 見込み
2024年度末 手元現金 224億円 (約96億円減)	←	2023年度末 手元現金 321億円	投資	700億円+α	236億円 (進捗率34%)	180億円 (累計進捗率59%)
		営業CF 370億円			成長投資（三重、沼田など） 海外関係会社投資 維持投資など	232億円 112億円 73億円
2024年度 有利子負債 約30億円増	←	負債 +α	配当 自社株買い	-	24億円 20億円	24億円

ご清聴ありがとうございました。

